

教育長室だより

第 3 号

2018.6.18

梅雨に入りましたがやや空梅雨の模様。とはいうものの蒸し暑さはやはり耐えがたいものがあります。学校に冷房が入り、学習環境としては改善されました。あとは自分の体の体温調節が必要になってくるかと思います。心身に元気があってこそ学習に取り組めます。これから夏休みまで、お子さんの体調管理にご留意ください。

○

【保育所での講話より ～その2～】

前回は「クウネルアソブ」について書きました。さて、講話の2つ目の話題は「あいさつとは何か考えてみました」です。

あいさつ運動はほぼ全国の学校で行われていると言っても過言ではありません。なぜこれほどあいさつが大事にされるのか、特に子どもたちの教育で重要視されるのかということについて少し違った視点から考えてみました。

○

次の説についてはよく取りざたされているのでご存じの方もおられると思います。

「2011年度に米国の小学校に入学した子どもの65%は今存在しない職業に就くだろう。」（キャシー・デビットソン：米国デューク大）

「IT化の影響で米国の702の職業のうちおよそ半分が失われる可能性がある」

（「雇用の将来」：英国オックスフォード大）

アメリカに限らず、世界中で今ある職業のかなりの部分が消滅し、新しい職業が誕生するということです。それを裏付けるかのようなAI（人工知能）の発達です。

○

私たちは子どもの教育に関して新たな方向を探る必要があるのでしょうか。とはいってもどのような能力が求められるか今ひとつ具体的ではありません。

おそらく言えること、それは人間にしかできないことがさらに重要になるということでしょう。そしてその一つが「人とつながる」ということではないでしょうか。意見の違う人どうまく議論する、利害の異なる集団どうしで合意形成するといったことです。そのために育てたいのが**コミュニケーション能力**で、その**第1歩が「あいさつ」**だということです。

○

あいさつは何のためにあるかを考えてみました。「オハヨウ」「コンニチハ」「コンバンハ」「サヨウナラ」。これらを漢字にしてみます。「お早う」「今日は」

「今晚は」「左様なら」です。漢字に変えても片言のようで意味を成しません。「お早う」は「朝早くから精が出ますね」のような意味合いでしょうか。「今日は」や「今晚は」は「いいお日和（晩）ですね」などの言葉を続けると意味が出てきます。「左様なら」は「そうであるならば」という意味なので「それでは」とか「じゃあ」という意味で「そろそろ帰ります」などと続けるべきところでは。



人と出会ったときに特に用がなければ話題に事欠いて、話にくいものです。しかし何の用がなくてもこのあいさつの言葉は意味なくかけることができるので、人と会話するきっかけになります。人との交流はあいさつによって自然にその口火を切ることができるのではないのでしょうか。

人とつながることが将来の社会で大事になるのなら、あいさつの習慣は子どもたちの将来にとって大事なものになるはずでは。

あいさつする大人に囲まれて育てば、どの子どももあいさつします。そういう環境作りが大切だということになりますね。

【グローバル人材の育成】

国や県、そしていろいろな教育の世界で取りざたされているものに「グローバル人材の育成」というのがあります。これからは国際社会で活躍することが求められる時代だと言われています。

徳島県ではさらに“グローバル”という言葉を作っています。これは、単にグローバル（地球規模の）という意味だけでなく、グローバルであるためには、自分のアイデンティティである文化つまり自分を育んだであろう地域の文化を見直すという意味で“ローカル”という言葉にくっつけた言葉です。そうは言いながら、世界をまたにかけて活躍する人がそうそういるわけではないですね。身近なことをしっかりやる方が大事じゃないのかとも思います。ただ、今私たちの身近な社会も世界の動きに影響されているのは確かです。

すぐ近くの国の主席と最大国の主席とが会見することが世界中で報道されません。ITの国際的な大企業の新製品が発売されると、町の販売店に行列ができていきます。世界の動きの影響が身近なところにすぐ表れる時代なのです。

もうすぐ（平成32年度から）小学校でも外国語が教科になります。単に英語という言葉のスキルを身につけさせるだけでなく世界へ目を開く入り口でもあります。

藍住町の教育でもこの“グローバル人材の育成”を後押しする策を検討していきたいと思っています。

今回はここまでとします。